

自然と共に生きる

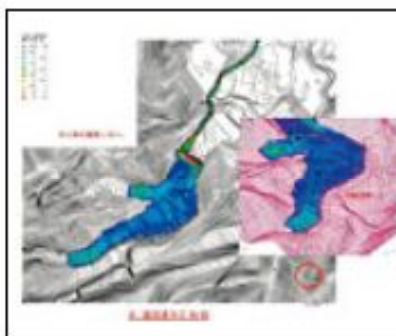
安全・安心な暮らしを守る

大正5年創業、以来100年にわたり社会インフラ整備に携わってきた荒谷建設コンサルタントに、防災事業や災害発生時の対応について伺いました。



① 人のいのちを守る

主に、道路や橋、トンネルや砂防堰堤などのインフラ整備にかかる調査・設計を行っています。防災面では、地すべりや土石流氾濫の被害状況など、シミュレーションによる災害予測や、ハザードマップを作成しています。



→土石流氾濫シミュレーション

② まちを守る

橋やトンネル、下水などの点検・調査も大事な防災です。高度成長期に多くの社会インフラがつくられましたが、半世紀たった今、老朽化しているものも多くあります。点検して事故を未然に防ぎ、安全に長く使えるよう維持管理しています。



③ いち早く災害現場へ

災害が起きたときはいち早く現場に駆けつけ、災害の規模や被害状況などを確認・調査し、適切な復旧工事につなげます。近年では、ドローンを使用するなどの新しい技術も積極的に取り入れ、調査の安全性、データ取得の効率アップに貢献しています。



→グリーンレーザーを搭載したドローン

④ 人間と自然を考える

わが社は「人間と自然を考える」を企業テーマとしており、防災は人と自然の問題とも捉えています。地震や集中豪雨など自然の圧倒的な力に対し、どのような対策を打ち、どう共存していくのかを考えながら地域に寄り添ったインフラ整備を継続していきたいと考えています。



代表取締役 荒谷悦嗣さん

